JAPAN HERITAGE
日本遺産

第三十四回
三重県明和町

斎王まつり

さいくう 平安の杜に つどう

平成28年

6月4日(土)（雨天の場合中止）

前夜祭 17時～21時
特別ゲスト/二胡奏者 剣山啓介
開会式・斎王他出演者披露

斎王市 15時～21時
斎宮歴史博物館会場

6月5日(日)（雨天の場合中止）

出発式・斎王群行 13時～15時
さいくう平安の社～斎宮歴史博物館
協力出演/皇學館大学雅楽部

斎王市 10時～15時
アトラクション

配役

斎王（さいおう）

八木　美海
（津市）

子供斎王

高岡　璃音
（愛知県）

女別当（にょべつとう）

島谷　菜々子
（伊勢市）

李　華曦
（津市）

中保　友里
（津市）

荊木　美彌子
（伊勢市）

内侍（ないし）

宇佐美　有沙
（愛知県）

采女（うねめ）

平野　加奈
（東京都）

小林　和華子
（京都府）

命婦（みょうぶ）

井上　真衣
（松阪市）

来光　美希
（松阪市）

丸山　優香
（津市）

命婦（みょうぶ）

日沖　美佐
（いなべ市）

大森　可名衣
（鈴鹿市）

石原　唯
（津市）

女孺（にょじゅ）

石賀　智与
（津市）

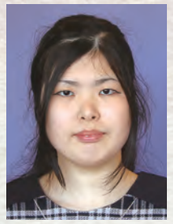
山本　由佳
（志摩市）

女孺（にょじゅ）

沖野　有希
（伊勢市）

山川　晶子
（伊勢市）

藤崎　佑香里
（松阪市）



佐藤　彩希
（埼玉県）

菊池　真希
（名張市）

女孺（にょじゅ）

吉村　歩
（津市）

島田　優希
（津市）

舞人（まいびと）

西田　成美
（松阪市）

中村　萌佳
（松阪市）

山谷　利奈
（愛知県）

舞人（まいびと）

坂谷　有絵
（伊勢市）

笠井　純花
（兵庫県）

近衛使（このえつかい）

稲垣　明香
（愛知県）

風流傘（ふうりゅうがさ）

桐山　卓也
（津市）

井手坂　徳久
（明和町）

風流傘（ふうりゅうがさ）

上村　英路
（伊勢市）

木本　浩史
（南伊勢町）

斎宮十二司官人

浜崎　小夜子
（大阪府）

中村　幸美
（明和町）

検非違使（けびいし）

シャー・チュアン・トニー
（多気町）

検非違使（けびいし）

北村　裕司
（伊勢市）

瀬田　慈
（明和町）

與丁（よちょう）

山本　泰広
（松阪市）

山城　一真
（大阪府）

與丁（よちょう）

江原　章人
（伊勢市）

廣垣　大毅
（伊勢市）

協力参加
皇學館大学
雅楽部の皆さん

第三十四回　斎王まつりを迎えて

昨年、明和町は日本遺産『**祈る皇女斎王のみやこ　斎宮**』が認定され、秋には実物大復元建物の正殿・西脇殿・東脇殿の三棟が完成し「斎宮平安の杜」として新たな観光名所としてスタートしました。

実行委員会事務所から見える「斎宮平安の杜」には連日、大勢のお客様がお越しいただくようになりました。

明和町に対し、斎宮に対して注目度の高さがうかがい知れます。

日本遺産に認定後はじめての「斎王まつり」は、いつもの群行コースが「斎宮平安の杜」を出発して博物館会場へと向うコースとなりました。

例年とは一味違う「斎王まつり」。

多くのお客様に明和町を訪れていただき改めて『斎王』の魅力を肌で感じていただければ幸いです。

実行委員一同より多くのお客さまが、明和町を訪れていただけますようお待ちしております。

斎王まつり実行委員会

6/4(土)（雨天中止）

斎王市
15：00～21：00

前夜祭
17：00～21：00
斎宮歴史博物館会場
開会式
特別ゲスト
二胡奏者　剣山啓介
斎王他出演者紹介

6/5(日)（雨天中止）

斎王市アトラクション
10：00～15：00
斎宮歴史博物館会場

出発式・発遣の儀
13：00～
さいくう平安の杜
協力参加
皇學館大学雅楽部

斎王群行
さいくう平安の杜から
斎宮歴史博物館会場まで

社頭の儀
14：45～15：00

もくじ

斎王まつり配役…… 2
斎王まつり童・童女出演者…… 4
日本遺産
「祈る皇女 斎王のみやこ　斎宮」 6
斎宮跡の発掘調査…… 9
斎王の通った道…… 12
斎王一覧…… 14
いつきのみや歴史体験館…… 15
図書の紹介 / 実行委員会組織体制 … 16
斎王まつり実行委員会活動…… 17
群行衣裳…… 18
フォトコンテスト…… 20
第３３回斎王まつりの思い出 … 22

童・童女　出演者（順不同）

下村　紅葉

北山　絢菜

川端　菜月

川口　釉菜

宇城　那留

井村　倫太郎

水千（すいかん）

早田　夏姫

野村　玲音

西田　結美

中川　凱煌

田野上　由唯

田野上　真唯

千早（ちはや）

青木　莉帆

山口　鈴音

諸岡　愛美

宮本　和弥

古川　夏子

福井　玲美

西村　まなみ

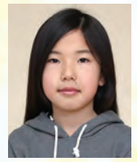
中山　叶夢

出口　華菜

木下　佐弥

喜多　萌衣

伊藤　羽菜


石井　有梨愛

脇田　美雨

山中　琴羽

派　桃華

松林　沙弥

東村　美海

小畑　愛菜

上西　郁菜

井村　めい

伊東　未紗

井坂　真依

池田　梨夢

あこめ

森田　想和

宮本　侑奈

中川　心愛

下村　神楽

小林　友優

日本遺産
「祈る皇女 斎王のみやこ 斎宮」

JAPAN HERITAGE
日本遺産

古代から中世にわたり、天皇に代わって伊勢神宮の天照大神に仕えた「斎王」は、皇女として生まれながら、都から離れた伊勢の地で、人と神との架け橋として、国の平安と繁栄を願い、神への祈りを捧げる日々を送った。

斎王の宮殿である斎宮は、伊勢神宮領の入口に位置し、都さながらの雅な暮らしが営まれていたと言われている。地元の人々によって神聖な土地として守り続けられてきた斎宮跡一帯は、日本で斎宮が存在した唯一の場所として、皇女の祈りの精神を今日に伝えている。

JAPAN HERITAGE
日本遺産

＜日本遺産とは…＞

文化庁が新たに創設した制度「日本遺産」に、明和町が申請した「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」が平成27年4月24日に認定されました。

日本遺産とは、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを認定するとともに、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の文化財群を地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外に発信することにより、地域の活性化を図る制度です。

明和町マスコットキャラクター
めい姫
©MEIWA town office.

①斎宮跡
②斎宮跡出土品
（斎宮歴史博物館）
③斎王の森
④竹神社（野々宮）
⑤祓川
⑥竹川の花園
⑦隆子女王の墓

明和町マスコットキャラクター
めい姫
©MEIWA town office.

⑧斎王尾野湊御禊場跡
⑨大淀
⑩業平松
⑪佐々夫江行宮跡
⑫カケチカラ発祥の地

明和町マスコットキャラクター
めい姫
©MEIWA town office.

＜日本遺産の構成文化財＞

斎宮跡

天皇に代わり伊勢神宮に仕えた皇女・斎王の宮殿と斎宮寮と呼ばれた役所の跡。古代から中世にかけて６６０年間続いた。
斎宮での斎王の暮らしは、神への祈りをささげる日々を送るとともに都さながらの雅やかな生活を送っていた。

斎宮跡出土品（国重文）

出土品 2,661 点が指定されている。蹄脚硯や緑釉陶器、和鏡、羊形硯の出土により、これまで文献や地名からしか推定されていなかった斎宮の存在が現実的なものとなった。これらの出土品により斎宮では、神に仕える神聖かつ慎ましやかな生活と都さながらの雅やかな生活とが交錯する日々であったことが読み取れる。

斎王の森

斎王の宮殿があったと語り継がれ、斎宮のシンボル的な森として地元の人々により守られてきた。

竹神社（野々宮）

斎王の宮殿があった神聖な場所が人々の信仰の場（神社）として受け継がれ、現在も祈りの空間を感じられる。

祓川

祓川は、聖なる神領の入口に流れる川。斎王の斎宮への旅立ちは、２００人余りの官人、女官等を連れて５泊６日かけて群行する。斎王にとっては、神に近づく禊祓の旅でもあり、この川で最後の禊を行って斎宮に赴任した。

竹川の花園

『源氏物語』の竹河の段の歌に登場し、伝承では、ここに四季の花が植えられていたとされ、斎王も花園に来て花を楽しまれていた景勝地。

隆子女王の墓

斎宮で亡くなった斎王、隆子女王の墓。隆子女王は醍醐天皇の孫女。宮内庁が管理を行い、清楚な雰囲気が漂う。

斎王尾野湊御禊場跡（さいおうおののみなとおんみそぎばあと）

尾野湊とは大淀海岸の古名。斎王が毎年９月に伊勢神宮で行われる「神嘗祭」に奉仕するため、８月晦日、禊を行って身を清めた場所といわれている。

大淀

倭姫命が天照大神の鎮座場所を探し求め、この地にたどり着き命名。
古代の多くの歌に「枕詞」として使われた景勝地。

業平松

斎王が伊勢に来た在原業平をこの松の下で見送り、別れを惜しみ、歌を詠み交わしたという物語に因んで業平松と呼ぶ。現在３代目。斎王のはかない恋物語の舞台となった風景が思い起こされる。

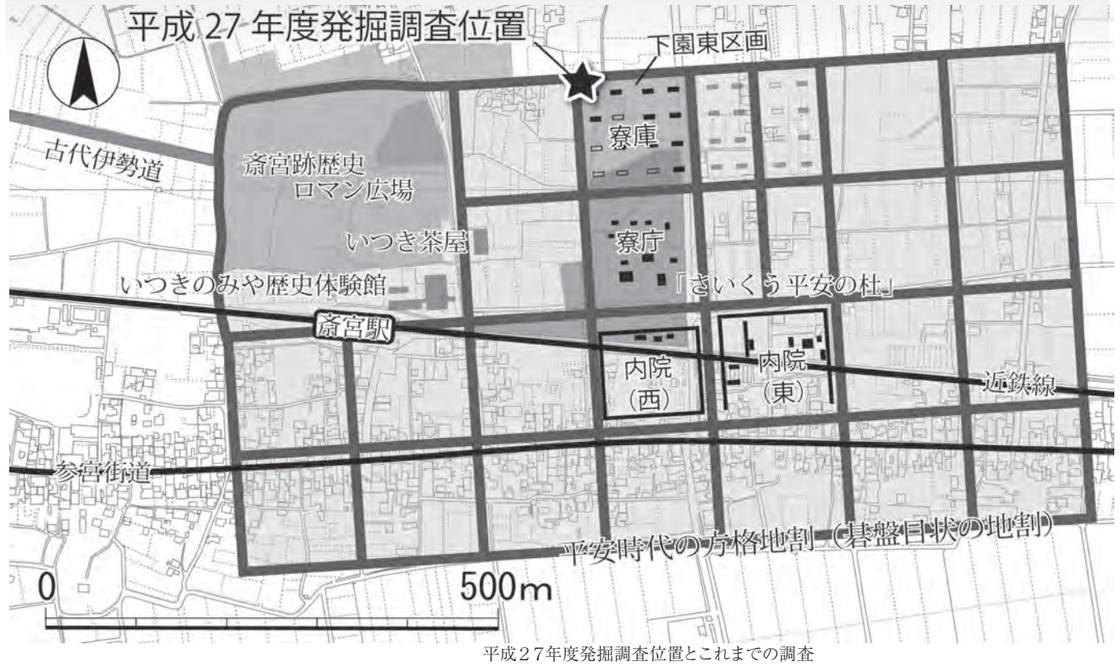
佐々夫江行宮跡（ささふえあんぐうあと）

伝説の初代斎王・豊鍬入姫命（とよすきいりひめのみこと）の後を継ぎ、天照大神の御杖代（みつえしろ）として各地を巡幸した倭姫命が、伊勢の地に入られ、大淀に御船をとどめて造った宮跡。

カケチカラ発祥の地

斎王・倭姫命と真名鶴伝説が由来。神嘗祭（かんなめさい）に初穂の稲束を伊勢神宮の内玉垣に懸け、国の永遠の繁栄を祈る懸税（カケチカラ）行事の発祥の地。

平成27年度の 斎宮跡の発掘調査



平成２７年度発掘調査位置とこれまでの調査

斎宮跡のこれまでの発掘調査

四〇年以上にわたる斎宮跡の発掘調査も、第一八六次を数え、斎宮の全貌が少しずつですが、明らかになりつつあります。特に平安時代の碁盤の目状の道路からなる、方格地割の発見は、平安時代の斎宮を解明するためのもっとも重要な発見でした。

斎宮の方格地割の道路は、幅五〇尺（一四・八メートル）を基本として東西南北に走ります。これは現代の自動車道路の四車線分に相当する幅の広さです。さらに、この道路によって囲まれた一つの区画は、一辺の長さが四〇〇尺（一一八・四メートル）あります（※注）。これは当時の都である長岡京と同じ規格です。

では、この各区画の中には何が建っていたのでしょうか。また各区画は何の役割を持っていたのでしょうか。

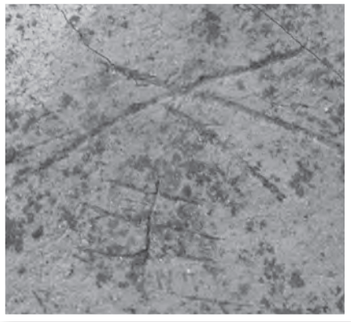
現在の竹神社の周辺では、斎王の宮殿である「内院」が確認されました。長大な塀で囲まれた空間の中に、大きな建物が確認されたのです。そして、この場所からは、緑色の美しい釉薬がかけられた高級な焼き物の「緑釉陶器」やひらがなを墨書した土器などが多数出土したことなどにより、ここが斎王の宮殿跡「内院」であることが分かりました。

また、斎宮の役人が政務や儀礼を行う「寮庁」も明らかになりました。北側、東側、西側の三方から広場を取り囲むように建物が配置された場所が確認されたのです。この場所は現在、史跡公園「さいくう平安の杜」として、三つの平安時代の建物を中心に復元されています。

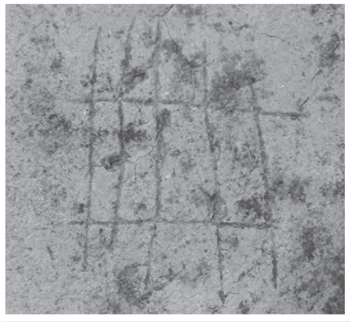
さらに、「寮庁」北側に、倉庫群が確認されました。一つの区画の中に整然と一六棟の建物が並ぶことが確認されたのです。一つの建物は、東西約一二メートル、南北約四・八メートルの大きさで、面積は五七・六平方メートルあります。この倉庫は、斎王をはじめ、斎宮にいる人々の日常生活を支える品々や、役人の給料となる物品を保管していたものだと考えられており、「寮庫」と呼んでいます。

※四五〇尺、四一〇尺の区画もあります。

みつかった多数の土器



「奉る」と刻まれた土器



ドーマン状の記号が刻まれた土器

平成二七年度の調査

今回の調査は、「さいくう平安の杜」の北側に位置する「下園東区画」の道路を解明することを目的に、約五四〇平方メートルの範囲で実施しました。「下園東区画」は、「寮庫」の位置する区画で、昭和四九年度第八―一〇次調査を皮切りに、四〇年以上にわったて発掘調査が行われてきた場所です。今回の調査によって、「寮庫」北西の実態や方格地割の道路の様子などが明らかとなりました。

調査で確認できたものは、道路、溝、土坑、掘立柱建物、石敷があり、多数の土器のほか、土でつくられた馬形である土馬なども出土しました。

調査成果の中でも、特に注目されるものは二つあります。まず一つ目は、平安時代のはじめ頃（今から約一二〇〇年前）の道路に伴う細長く続く側溝がみつかったことです。

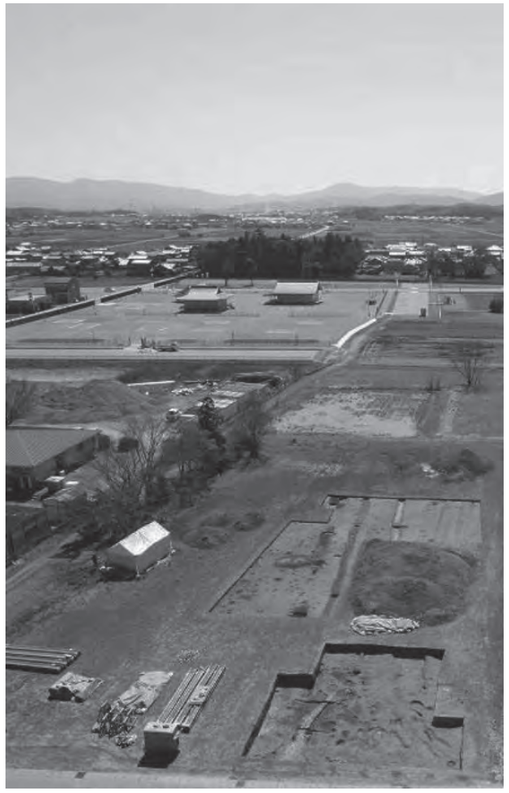
側溝は、南北に細長くのび、「さいくう平安の杜」で、復元されている、道路の側溝と真っ直ぐにつながります。平安時代はじめ頃の道路は幅五〇尺（一四・八メートル）を基本としており、幅や長さ、方角など、計画性の高い道路からは、古代の人々が高い土木技術を有していたことわかります。

次に二つ目は、文字や記号を土器に刻んだ、刻書土器が出土したことです。

文字が刻まれた刻書土器は、漢字で「奉」、記号が刻まれた刻書土器には、二本の横線と五本の縦線で、現在でも海女が魔除けなどに使用する「ドーマン」のような記号が書かれていました。どちらの刻書土器も道路の溝の中や、その付近から出土しており、道路に沿った場所で、土器を使用した何らかの儀礼を行っていた可能性などが考えられます。

斎宮歴史博物館の行う発掘調査は、いつでもご見学いただけるほか、現地での説明会も開催しています。また、発掘調査の成果については博物館で展示を行うほか、小・中学生の体験発掘や中学生職業体験の受入れも行っています。「さいくう平安の杜」の見学と合わせて、これからも斎宮歴史博物館の行う発掘調査にご期待ください。

（斎宮歴史博物館　調査研究課）



ドーマン状の記号が刻まれた土器

斎王の通った道

榎村　寛之

近年、斎宮跡に二本の新しい道が完成しました。一本は「さいくう平安の杜」復元建物南側の長さ二〇〇メートル余りの道路、もう一本は、博物館南側に位置し、斎王まつりのメイン会場になっている「ふるさと広場」と斎宮の十分の一模型がある「歴史ロマン広場」を結ぶ、長さ三〇〇メートルほどの道路で「古代伊勢道」と通称されています。

これらの道路は、ほぼ直線道路として設計されています。一見自動車専用道路にも見えますが、一般的な公道というより、斎宮跡を歩いて旅される方を優先して設計されています。じつはいずれも、「復元された古代道路」なのです。

「さいくう平安の杜」南側の道路は、平安時代の斎宮を訪れた貴族の日記に、

「斎宮北路」

と記された道と考えられています。幅約一五メートル（道路側溝の外側から外側まで、約五十尺）、八世紀後半、七八〇年代に造られた斎宮の碁盤目状区画（方格地割）を構成する道路の一部で、その中でも最も立派な道路と見られています。一方、「古代伊勢道」は幅約九メートル（道路側溝の中心から中心までで、古代の計り方で約二五大尺）、都と伊勢神宮を結ぶ古代の道の一部を再現したものです。この道路は側溝から出土した土器により、八世紀前半には造られていたものと考えられています。

そしてこの二本の道は、連続した道でもあるのです。

奈良時代には、平城京から全国を結ぶ道が国家によって造られました。こうした道は全国に七本あり、東海道・東山道・北陸道・山陽道・山陰道・南海道・西海道と称され、都から国府と国府をつないで日本の端まで結んでいたのです。そのため、奈良時代の地域区分は、「五畿七道」と呼ばれていました（五畿とは、都とその周辺の重要な国、大和・摂津・河内・和泉・山城のことです）。

これらの道のいくつかは、発掘により確認されています。その結果、古代の幹線道路は地形に応じて曲げるのではなく、時には山や丘を削ったり、湿地に土を盛ったりして、極力直線にしていたことがわかってきました。その道の幅は大変広く、都と大宰府を結ぶ、最も重要な道だった山陽道は、兵庫県で発掘されており、幅一四メートルだったことがわかっています。

さらに都やその周辺の大和盆地の、いわば首都圏の重要道路となると、平城京と飛鳥を結ぶ下つ道は路面幅で一八メートル、平城京朱雀大路では幅七五メートルと、とても実用的とは思えないほど広い道だったのです。

こんなに広い道、何に使ったのでしょう？

こうした道には、約十六キロごとにリレー地点である駅が置かれ、駅使と呼ばれる緊急連絡者が走る時には、馬のリレーができるようになっていたので、まさに非常体制が取れる道だったのです。また、駅は公が発行した通行証がないと使えませんでしたから、まさに国家のために造られた道で、だれもが安心して使える道、というわけではなかったのです。また、こうした道は奈良時代に行われていた徴兵制と関係しており、たくさんの歩兵が通れるように幅広く造っている、という説もあります。さらに重要なのは、これほどの土木工事を行える中央の国家ってすごい、という印象を全国に行き届かせる、ということにも大きな意味があったようです。

さて、斎宮跡で発掘された奈良時代の道「古代伊勢道」は、平城京から伊賀・伊勢を通り、尾張国に向かう東海道と鈴鹿関で分かれ、伊勢神宮や志摩国府に向かう道だったと考えられています。

つまり古代の本線ではなく、支線だったと考えられるのですが、幅約九メートルというのは、島根県松江市で発見された、古代山陰道と考えられている道路の跡とほぼ同じ幅で、決して格の低い道路ではありませんでした。それは、国家にとって最も重要な神社である伊勢神宮や、御食国（みけつくに）、すなわち天皇の食卓に上る新鮮な海産物を献上する国である志摩国は、都との連携を密にしておく必要があったからに他なりません。

さて、この古代伊勢道は、先にも述べたように八世紀前半の道路で、史跡の中を、西北西から東南東に斜めに横切る感じでまっすぐに通っていました。ところが、八世紀の後半、七八〇年代の頃に、史跡の東側でこの道は壊されてしまいます。せっかく造ったのにもったいないようですが、その理由は、さらに広い道を付けるためだったのです。そして造られたのが、「斎宮平安の杜」の中で再現された方格地割の区画道路でした。つまり、斎宮の方格地割は、古代伊勢道を吸収して設計されているのです。

「斎宮北路」が幅約一五メートルという話は先にしました。つまり都から伊勢神宮に向かう旅人は、斎宮の方格地割に入る所で道が急に曲がって、その間は幅が五割ほど広くなり、東西にほぼまっすぐ進むようになったことに気がついたはずです。そしてその左右には斎宮や斎宮寮の建物が建ち並んでいたので、いわば都の官庁街の中を通っているような感じになったことでしょう。

まして当時の多気郡の人々にとっては、官庁として最も身近なのは郡衙（郡の役所）程度しかなかったわけですから、こんな計画的な景観を見る機会などまずなかったでしょう。それはそれはすごいインパクトだったと思います。

そして「古代伊勢道」は、もちろん歴代の斎王が通っていった道だということになります、斎宮女御として知られる徽子女王や、博物館の映像展示「斎王群行」のヒロイン良子内親王ら平安時代の斎王、そして斎宮寮の人々は全てこの道を通り、斎宮北路や、今の伊勢街道のあたりにあったと考えられている「斎宮南路」を使って斎宮に入ったと考えられています。そして「古代伊勢道」は、奈良時代の斎王、たとえば聖武天皇の娘で光仁天皇の皇后となった井上内親王が通った道でもあるのです。

また、「斎宮北路」は、都と伊勢神宮を結ぶ官道として機能していたので、多くの都人や、重要な情報を持った早馬が通っていった道でもありました。

たとえば『伊勢物語』で語られる在原業平とされる「男」が本当に斎宮に来たのかどうかは分からないのですが、平安時代の読者で当時の斎宮を知っていた人には、きっとこれらの道を通ったとイメージされたことでしょう。また、その兄の在原行平は長奉送使として斎宮を訪れていますから、本当に斎王とともに「古代伊勢道」を馬で通っていったことになるわけです。また、伊勢神宮に派遣された勅使、たとえば後の関白で藤原道長の兄だった藤原道兼や平清盛といった人々も確実にこれらの道を通っていたのです。

そしてこの道は多くの情報も通っていきました。例えば奈良時代には、伊勢神宮の外宮と斎宮の上に不思議な雲が出たということで、神護景雲、天応という二つの年号が定められました。この雲が出たことを知らせる使者は、古代伊勢道を通っていったものと考えられます。これらの雲はその当時の政治の状況を伊勢神宮が喜んでいるものと理解されているのですが、面白いのは、神護景雲は斎王を中断し、神宮に神宮寺という寺院を付属させていた称徳天皇の時代、天応は斎王を復活させた光仁天皇の時代の年号だったということです。神宮は全く反対の政策を喜んでいた、ということになるわけです。

あるいは、長元四年（一〇三一）に斎王嫄子女王が時の政権の神宮政策を批判して、都で大事件となった斎王託宣事件を知らせる使もまた、斎宮北路から古代伊勢道を通って都に向かったものと考えられるのです。

このように、古代伊勢道と斎宮北路は、近世に伊勢街道が付けられるまで、この地域の重要な道として機能していたものと考えられます。そして現代に至るまで、これらの道は地域の生活と密着した道として使われてきました。それが開通当時の姿を現したわけです。

なお現代の伊勢街道は、竹神社の南側を通っていますが、これは斎宮内院の南側の道、「斎宮南路」とほぼ一致すると考えられています。斎宮北路と南路に挟まれた竹神社こそ、平安時代を通じて斎王が住む内院として機能していた区画の主要部分なのです。

斎王一覧

斎王の伊勢滞在期間は短くて一年、長い人では三十一年という例があり、年齢は五歳から十五歳の少女に集中しており、最高で群行時三十二歳という斎王もいます。

＊は女王（天皇の娘以外の皇族女性）
〔　〕内は実在の確認できない斎王
○は斎宮に群行した斎王
△は斎宮に群行しなかった斎王

時代	歴代斎王	在任期間（年）	天皇	西暦	歴史上のできごと
伝説の時代の斎王	豊鍬入姫（とよすきいりひめ） 倭姫（やまとひめ） 五百野（いおの） 〔伊和志真〕（いわしま） 稚足姫（わかたらしひめ） 荑角（ささげ） 磐隈（いわくま） 菟道（うじ） 酢香手姫（すかてひめ）		崇神、垂仁 垂仁、景行 景行 仲哀 雄略 継体 欽明 敏達 用命～推古		壬申の乱 大来皇女　大和の泊瀬から伊勢に向かう群行の確実な初例（日本書紀） 藤原京に遷都 斎宮司が寮と同格になる　斎宮官制の初見（続日本紀） 和同開珎鋳造 平城京に遷都 古事記撰上
飛鳥	○大来（おおく） ○当耆（たき） ○泉（いずみ） ○田形（たかた） 〔多紀〕（たき） 〔円方〕（まどかた）＊ 〔智努〕（ちぬ）＊ ○久勢（くせ）	六七三～　六八六 六九八～　七〇一 七〇一～　七〇六 七〇六～　？ ？　？ ？　？ ？	天武 文武 文武 文武～元明 元明 元明 元正	（六七三） （六七四） （六九四） （七〇一） （七〇八） （七一〇） （七一三）	
奈良	○井上（いのうえ） ○県（あがた）＊ ○小宅（おやけ）＊ ○山於（やまのうえ）＊ ○酒人（さかひと） ○浄庭（きよにわ）＊ ○朝原（あさはら） ○布勢（ふせ） ○大原（おおはら） ○仁子（よしこ） ○氏子（うじこ） ○宜子（よしこ）＊ ○久子（ひさこ） ○晏子（やすこ） ○恬子（やすこ） ○識子（さとこ） △掲子（ながこ） ○繁子（しげこ） ○元子（もとこ）＊	七二一～　？ ？～　七四九 七四九～　？ 七五八～　？ 七七二～　？ ？　七九六 七八二～　八〇六 七九七～　八〇九 八〇六～　八〇九 八〇九～　八二三 八二三～　八二七 八二七～　八三三 八三三～　八五〇 八五〇～　八五八 八五九～　八七六 八七七～　八八〇 八八〇～　八八四 八八四～　八八七 八八九～　八九七	元正～聖武 聖武 孝謙 淳仁 光仁 光仁 桓武 桓武 平城 嵯峨 淳和 淳和 仁明 文徳 清和 陽成 陽成 光孝 宇多	（七二〇） （七二八） （七五二） （七五九） （七八四） （七九四） （八〇五） （八〇六） （八一四） （八三九）	日本書紀撰上 斎宮寮の拡充整備　官人の定員と官位が決まる（類聚三代格） 東大寺大仏開眼供養会 万葉集編纂 長岡京に遷都 平安京に遷都 最澄帰国　比叡山に延暦寺建立 空海帰国　高野山に金剛峰寺建立 多気の斎宮を度会の離宮（小俣町離宮院跡）に移す（類聚国史） 度会の斎宮（離宮院）の官舎百余棟焼失　斎宮を多気に戻す（続日本後紀）
平安	○柔子（やすこ）	八九七～　九三〇	醍醐	（八九四） （九〇五） （九二七） （九三五頃） （九三八）	遣唐使廃止 古今和歌集撰上 斎宮寮の失火（扶桑略記） 延喜式完成　斎宮に関する細則も納められる（延喜式） この頃竹の都と呼ばれる（大和物語） 土佐日記 重明親王女　徽子女王群行（貞信公記）
	○雅子（まさこ） △斉子（きよこ） ○徽子（よしこ）＊ △英子（はなこ） ○悦子（よしこ）＊ ○楽子（やすこ） △輔子（すけこ） ○隆子（たかこ） ○規子（のりこ） △済子（なりこ）＊ ○恭子（たかこ）＊	九三一～　九三五 九三六～　九四五 九四六 九四七～　九五四 九五五～　九六七 九六八～　九六九 九六九～　九七四 九七五～　九八四 九八四～　九八六 九八六～一〇一〇	朱雀 朱雀 朱雀 村上 村上 村上 冷泉 円融 花山 一条	（九九五頃） （一〇一〇頃） （一〇一六） （一〇四〇）	斎宮　隆子女王疱瘡により斎宮寮にて死亡（日本紀略） 枕草子 源氏物語 道長が摂政となる　摂関政治 斎宮歌合せ（類聚歌合）
	○昌子（まさこ） ○嫥子（よしこ）＊ ○良子（ながこ） ○嘉子（よしこ） ○敬子（たかこ）＊ ○俊子（としこ）＊ ○淳子（あつこ） ○媞子（やすこ） ○善子（よしこ） ○姸子（あいこ） ○守子（もりこ）＊	一〇一二～一〇一六 一〇一六～一〇三六 一〇三六～一〇四五 一〇四六～一〇五一 一〇五一～一〇六八 一〇六九～一〇七二 一〇七三～一〇七七 一〇七八～一〇八四 一〇八七～一〇七七 一〇八～一一〇七 一一〇七～一一二三	三条 後一条 後朱雀 後冷泉 後三条 白河 白河 堀河 鳥羽 崇徳	（一〇一一） （一〇一六） （一〇四〇） （一〇八六） （一一二三）	白河上皇の院政始まる　摂政・関白無力化 斎宮石名取り歌合（金葉集等）
	○斉子（ちかこ） ○恂子（ちかこ） ○利子（としこ） ○昱子（てるこ） △曦子（あきこ） ○愷子（やすこ）	一一四二～一一五〇 一一五一～一一五五 一一五六～一一五八 一一五八～一一六五 一一六五～一一六八 一一六八～一一七二 一一七七～一一七九 一一八五～一一九八	近衛 後白河 二条 六条 高倉 高倉 後鳥羽	（一一二七） （一一五六） （一一五九） （一一六七） （一一七二） （一一八五）	保元の乱 平治の乱 平清盛　太政大臣就任 斎宮惇子内親王　斎宮寮にて病死（百錬抄） 平家滅亡
	○潔子（きよこ） △功子（いさこ） ○惇子（あつこ） △休子（のぶこ） ○好子（よしこ） △亮子（あきこ） ○喜子（よしこ） ○妍子（よしこ） ○守子（もりこ）＊	一一九九～一二一〇 一二一五～一二二一 一二二六～一二三二 一二三七～一二四二 一二四四～一二四六 一二六二～一二七二	土御門 順徳 後堀河 四条 後嵯峨 亀山	（一一九二） （一二一九） （一二二一） （一二四二） （一二四六） （一二七二）	源頼朝　征夷大将軍　就任（鎌倉幕府開く） 承久の乱　朝廷の力衰退
南北朝	鎌倉				
	△懽子（よしこ） △祥子（さちこ） △肂子（まさこ） ○粛子（すみこ） ○熙子（ひろこ） ○利子（としこ） ○昱子（てるこ） △曦子（あきこ） ○愷子（やすこ）	一二七七～一二八〇 一二八一～一二八八 一二八九～一三〇六 一三〇六～一三〇八 一三〇八～一三一一 一三一一～一三一三 一三一三～？	後二条 後醍醐 後醍醐	（一二七四） （一二八一） （一三一四） （一三一一） （一三一三） （一三一四）	文永の役　元寇 弘安の役　元寇 正中の変 元弘の変 鎌倉幕府　滅亡 建武の中興

参考　斎宮歷史博物館総合案内

いつきのみや歴史体験館をご紹介します!!

「いつきのみや歴史体験館」は、斎宮跡の保存と活用を図るため、文化庁の斎宮跡地方拠点史跡等総合整備事業（斎宮歴史ロマン再生事業）として平成十一年十月二日に開館して今年で十七年目を迎えます。そもそも「いつきのみや歴史体験館（以下「体験館」という）」という名称はと申しますと、建築の年に広く県民等に対する一般公募により応募のあった八六三件の中から名称選定審査会議で選考され、この年の「斎王まつり」会場において公表されました。このような経緯からも、「体験館」と「斎王まつり」とはご縁がございます。

体験館は、ガイダンス棟、体験学習棟、野外学習棟の三棟で構成されていて、床面積は約九七六㎡あります。また、この施設は参加型の体験学習施設として、平安時代の貴族の年中行事を中心に古代の技術や機織り、糸づくりなどの伊勢地方の伝統文化にかかわる体験活動を通して、史跡や古代の文化に親しみ、文化財を大切にし、後世に伝えていく文化を育むことを目的とした施設です。

体験館そのものも、古代建築の生活体験として活用されるよう設計され、意匠的には、ガイダンス棟は平安貴族の邸宅である寝殿造り、体験学習棟は古代の役所建物、野外学習棟は付属建物をイメージさせるものとしています。建築にあたっては、木造建築とし、木材はすべて県内産のスギ、ヒノキのみを用いています。建築工法的には、耐久性が問題となる釘・鎹等の金物類は用いず、仕口と継ぎ手で組み上げ、大型材も仕口加工と時代性から背割りを入れない工法を取るなど、古代建築の伝統技法に則り、新素材を用いない環境にやさしい建物になっています。

体験館では、大きく分けて、来訪者がいつでも体験できる「随時体験」と予約・定員制で、学習室を中心に使っての講義と実体験を取り入れた「講座体験」があります。

随時体験では、十二単や直衣などの試着体験、盤双六や貝覆いなどで遊んでいただけます。

講座体験では、機織り、草木染め、藁細工づくりなどがあり、古代の技術・文化などを体験していただけます。

また、体験館・国史跡斎宮跡休憩所（いつき茶屋）を主会場として実施する「さいくう市（原則毎月第一・第三日曜日開催）」六月に「花しょうぶフェア」九月に「いつきのみや観月会」一二月に「追儺のまつり」二月に「いつきのみや春絵巻」などのイベントや四季ごとの体験館の館内展示などを実施しています。平成二十八年度は更に新イベントも企画して参りますので、斎宮にお越しの際は、是非とも入館無料の「いつきのみや歴史体験館」にお立ち寄り下さい。

いつきのみや歴史体験館

三重県多気郡明和町斎宮3046番地25
TEL.0596-52-3890
ホームページ　http://www.itukinomiya.jp/

【入 館 料】無料　【開館時間】9：30～17：00
【休 館 日】月曜日（祝日の場合を除く）、祝日の翌日、年末年始
【交通案内】近鉄斎宮駅史跡公園口下車すぐ　伊勢自動車道玉城ICより約20分

図書の紹介

私達の「斎宮」についてより多くのことを知っていただくために
ー地元で読める斎宮関係図書のご紹介ー

凡例
◎ふるさと会館（図書館）で貸出可　○ふるさと会館（図書館）で閲覧可
☆いつきのみや歴史体験館・博物館ミュージアムショップで販売
◇斎宮歴史博物館図書ホールで閲覧可

「斎宮」の入門書として	谷口布有緒文　里中満智子画『斎王ロマン　都わすれの詩』明和町◎☆ 中野イツ著『斎宮物語』明和町◎☆ 山川修司著『語り部の竹の斎王語り』近代文芸社◎☆◇ 榎村寛之著『伊勢斎宮と斎王』塙書房☆
郷土の歴史として「斎宮」を知りたい方に	奥井宏忠著『別れの御櫛ー斎の宮と斎宮寮』光書房○◇ 明和町教育委員会編『郷土史に見る斎王』◎◇ 三重の文化財と自然を守る会編『伊勢斎王宮の歴史と保存』○◇ 『同Ⅱ』◇
斎王一行の旅した「群行」の道を歩いてみたい方に	田畑美穂著『斎王のみちー伊勢斎宮の文化史ー』中日新聞本社○◇ 村井康彦監修『斎王の道』向陽書房◎☆◇
「斎王」を小説で読んでみたい方に	内田康夫著『斎王の葬列』角川書店◎◇ 池田美由喜著『鷺草ー大津皇子とその姉とー』新風舎◇ 郡俊子著『倭姫宮の御巡行』勢陽文芸◎◇ 〃　『伊勢斎王の恋』近代文芸社◎◇ 〃　『哀しみの伊勢大来斎王』近代文芸社◎◇
「斎宮」や「斎王」について考えてみたい方に	津田由伎子著『斎王』学生社○◇ 山中智恵子著『斎宮女御徽子女王ー歌と生涯ー』大和書房◎◇ 〃　『斎宮志』大和書房◎◇ 〃　『続斎宮志』砂子屋書房◎◇ 〃　『斎宮箚記』砂子屋書房◎◇ 所京子著『斎王和歌文学の史的研究』国書刊行会◇ 〃　『斎王の歴史と文学』国書刊行会◇ 榎村寛之著『律令天皇制祭祀の研究』塙書房◇ 中川ただもと著『斎宮和歌の解釈と鑑賞』紫明の会☆ 服藤早苗著『歴史のなかの皇女たち』小学館☆

第34回（平成28年度）斎王まつり実行委員会組織体制

本部	代　表　土井　祐治	名誉会長（町長）中井幸充	
	副代表　笛川　浩	顧問　木戸口眞澄　西場信行　浜井初男　濱口　尚紀　辻井成人	
	副代表　岩佐　康則	長井雅美　辻　丈昭　東谷泰明　山川充造　長岡成貢	
	副代表　森田　均		
	副代表　森　菜津子	相談役　辻　孝雄　森島啓之　東谷泰明　橋本久雄　西川道子 渡邊幸宏　森下　清　田中　貢　新田一子	
	事務局　山中　いずみ		
会計監事	朝倉　惟夫　久世　晃		
	任務分担の内容		9
総務・財務班	総務の実施 財務の実施 ｸﾞｯｽﾞ販売・ｽﾀﾝﾌﾟﾗﾘｰ等 斎王市の実施	◎森下　清　○辻　正　竹内克巳　大西俊次郎　辻　孝雄　中川裕正 森島啓之　田中真司　田中　貢　小林順一　奥山幸洋 野田節雄　橋本久雄　樋口文隆　田端正俊　三浦邦昭	16
会場班	着付会場内の管理 出演者の移動 記念写真	◎東谷泰介　○北川和樹　石田豊喜　澤　恒一　中瀬正実　東谷泰明 江　京子	7
着付班	着付け準備と後片付け	◎西宮幸代　○田中政子　○安井澄代　衣斐喜代美　菊矢照子　夏井ちはる 服部益子　八田明美　山中弘子　富山正美　北山良子 森下昌子　西川美代子　新谷千恵子　森　洋子　寺西照美 中川啓子　加藤さわみ　日下勝子　西田章香	20
まつり実施班	前夜祭の実施 禊の儀の実施 出発式の実施 群行の実施 社頭の儀の実施 ｱﾄﾗｸｼｮﾝの実施	◎関岡武夫　○早川潤一　○中西修一　○北山房夫　○乾　秀治　永島せい子 石田藤生　伊串金市　小林邦久　佐々木久夫　長谷川新 西岡信行　中島　宏　市野秀世　秋山修一　伊藤佳史 辻　満寿美　乾　健郎　間宮一彦　野上但治　下村幸一 鈴木健司　小林正明　岩本温行　竹内和持　永井健太 中井啓悟　西岡　潤　森川高広　石田真也　潮田拓也 佐田薫士　西道　涼　和佐田照夫　和佐田道子	35
広報班	ポスター・パンフレット原案作成 広報・宣伝事業計画	◎北村哲也　○山内　理	2

敬称略・順不同（◎は班長　○は副班長）　平成 27 年 4 月 15 日現在

準備作業

第 33 回（27 年度）斎王まつり実行委員会活動報告　（敬称略）

1月　8日(木) 新倉庫設計について　役場と打ち合わせ　本部
　　15日(木) 会計監査
　　16日(金) 第2回梅まつり会議
　　24日(土) 役員会
　　30日(金) 総会
2月 10日(火) 出演者募集締切
　　12日(木) 役員会(出演者書類選考)
　　17日(火) 第3回梅まつり会議
　　19日(木) 総務･財務班会議
　　22日(日) 子供説明会(子ども斎王抽選　中央公民館)
3月　1日(日) 「梅まつり」(斎宮歴史博物館)　雨天にて中止
　　3日(火) 松阪ケーブルテレビ　来所　選考会撮影打ち合わせ
　　6日(金) 役員会(選考会について)
　　8日(日) 斎王役選考会(いつきのみや歴史体験館)
　　17日(火) 第4回梅まつり会議
　　19日(木) 夕刊三重　新斎王　取材
　　20日(木) 本部･実施班合同会議
4月　6日(月) 三重テレビ番組　打ち合わせ
　　8日(水) 着付け班　衣裳整理
　　9日(木) 第1回リーフレット校正会議
　　14日(火) 第2回リーフレット校正会議
　　16日(木) 斎王市会議
　　24日(金) 全体会議
　　30日(木) リーフレット回覧(明和町全戸配布)
5月　1日(金) 近鉄宇治山田駅長　来所　斎王ハイキングについて
　　10日(日) 作業　(竹きり　のぼり立て準備　看板出し　ステージ製作準備)
　　11日(水) 着付け班　衣裳整理
　　12日(火) 三重テレビ「旬感三重」出演(土井代表･斎王　前田)
　　15日(木) アトラクション会議
　　17日(日) 出演者説明会･リハーサル･ステージ製作･大道具製作
　　18日(月) 知事表敬訪問　第31代斎王役　前田　内侍役　来光
　　24日(日) 午前　のぼり立て
　　午後　子ども出演者説明会リハーサル･ステージ組み立て
　　三重テレビ「はぴ3」撮影
　　27日(水) 皇學館大学　雅楽部　打ち合わせ(土井代表)
　　29日(金) 最終全体会議
　　31日(日) 最終ステージ製作
6月　2日(火) 着付け班衣裳出し
　　3日(水) 実施班会議
　　斎王市テント立て
　　6日(土) 前夜祭
6月　7日(日) 斎王まつり
　　14日(日) 片付け･反省･打上
　　17日(水) 衣裳片付け
　　18日(木) 三重県観光キャンペーンガイドブック
　　知事との座談会出演(斎王　前田)
　　26日(金) 第1回日本遺産活用推進協議会会議
7月　1日(水) 伊勢まつり会議　土井代表出席(伊勢市役所)
　　9日(木) 役員会(反省会)
　　17日(金) フォトコンテスト応募締め切り
　　21日(火) フォトコンテスト1次審査
　　30日(木) 役員会(フォトコンテスト入選･入賞作品選考)
　　応募者68名　応募作品127点
8月25日(火) 第2回日本遺産活用推進協議会会議
　　31日(月) 第33回斎王まつりフォトコンテスト入賞･入選写真展　準備
9月　1日(火) 第33回斎王まつりフォトコンテスト入賞･入選写真展
　　(斎宮歴史博物館にて9月18日まで)
　　3日(木) 役員会
　　6日(日) 第33回斎王まつりフォトコンテスト表彰式
　　11日(金) 臨時総会
　　15日(火) 衣裳準備
　　18日(金) フォトコン作品　片付け
　　26日(土) 斎宮復元建物竣工式　観月会　出演(斎王役 前田　女官役 八木)
10月　1日(木) 役員会
　　8日(木) 伊勢まつり衣裳出し
　　11日(日) 伊勢まつり　斎王群行
　　13日(火) 三重テレビ「旬感三重」出演(斎王役　前田)
　　19日(木) 伊勢まつり衣裳片付け
　　20日(木) 役員会
　　24日(土) 「さいくう平安の杜」フェスタ　斎王　前田　他6名出演
　　26日(月) 伊勢まつり衣裳片付け
　　FM三重「広瀬隆のラジオ魂」　出演(斎王役　前田)
11月　5日(木) 役員会
　　8日(日) 古道まつり斎王群行　　中止
　　27日(金) 役員会
12月　1日(火) 第34回斎王まつり出演者　募集開始
　　5日(土) ざいしょ市　着付け体験　　本部･広報班会議
　　13日(日) 三重TV「ミステリアス斎宮」
　　出演　斎王役 前田　第25代斎王役 鳥井　第26代斎王役 瀬田
　　18日(金) 梅まつり会議
　　24日(木) 来訪者アップ会議
　　28日(月) 大掃除･事務所仕事納め

群行衣裳

長奉送使【ちょうぶそうし】

監送使ともいう。斎王一行を伊勢まで送り届ける群行の最高責任者。沿道における警察権が与えられており、任を終えると直ちに帰京しました。

検非違使【けびいし】

平安時代から室町時代にかけて京中の警察を担当した職。元来、平安京の治安維持は京職や衛府の任であったが、特定の官人に京中の警察を担当させることがあり、それが検非違使となり、やがて衛府や京職・弾正台などの権限を吸収し、王朝国家有数の警察機関となったのである。

看督長【かどのおさ】

検非違使庁の下級職員で、身分は火長。弘仁式制では左右それぞれにつき二人と定められ、貞観・延喜式制に継承されているが、その後次第に増員され、長元八年（一〇三五）の『看督長見不注進状』（『平遺』五二九～三七）では左右合わせて十五人を数える。獄直や犯罪の捜査・追捕等を任務とする。尉を中心として編制される警察部隊の一員として出動することがあるが、単独ないし少数の従者を率い、事に従うことが多い。しばしば行き過ぎた捜査や追捕を行い、京民から頼りにされる一方で、恐れられもした。その武力は悪鬼魔神を慴伏するという信仰を生み、『徒然草』二〇三には主上御悩の時、五条の天神に看督長の靫をかけることが見え、『神道名目類聚抄』には守門の神を看督長と称したとある。

随身【ずいしん】

随身とは、貴族が外出する際に警護にあたった近衛府の官人を指します。それには高い教養と優美な美貌が求められたと云います。

駕輿丁【かよちょう】

斎王の乗る輿（葱華輦）を担ぐ人です。

斎王【さいおう】

天皇の即位ごとに、未婚の内親王（天皇の娘）あるいは女王（天皇の兄弟の娘など）の中から占いで選ばれ、天皇の譲位や崩御、あるいは肉親の不幸などにより解任されて、都に帰る決まりになっていました。伊勢神宮の祭りには、六月・十二月の月次祭と九月の神嘗祭に関わるのみで、ふだんは斎宮の中で都と同様の生活を送っていたものと考えられています。

古代から中世にかけての文学作品に登場する斎王も多く、『源氏物語』『伊勢物語』など、多くの文献に残されています。

十二単【じゅうにひとえ】

十二単とは近世になってからの呼び名で、正しくは女房装束、または裳唐衣といいます。単衣の上に袿を重ね、打衣、表着の上にベストのような唐衣をはおり、腰には前部のないプリーツスカートのような裳をつけます。貴族の女性の晴の衣裳（正装）です。

髪は垂髪、作り眉。上衣は、上から順に唐衣、表着、打衣、袿、単となっています。唐衣は衽、衿合わせがなく、上からはおります。表着は上の御衣とも呼ばれる垂領広袖の袷仕立てです。打衣は砧で打って光沢を出したところからこの名があります。形は表衣と同じで紋様はありません。袿は、内衣の意味で、垂領、広袖の袷仕立てで地紋があり、数枚重ねて用います。単は袿と同形ですが、裄、丈ともに長く、単仕立てで裾はひねり仕立てになっています。下衣には袴と裳をつけます。袴は緋の長袴（若年未婚は濃色）、裳は背にあてて結び、後に長く垂らして引きます。

1．垂髪　2．唐衣
3．表着　4．打衣
5．衣（袿）（枚数を重ねている）
6．単　7．長袴　8．裳（全体）
9．裳の小腰　10．裳の引腰
11．檜扇（衵扇）　12．帖紙
13．日陰の糸（玉かずら）

※斎王が付けていたかどうかは定かではありません。

内侍または命婦【ないし または みょうぶ】

斎宮で働く女官たちの最高責任者として、乳母や女孺の上にいる立場にありました。

女別当【にょべっとう】

内侍や宣旨が、斎王の住むエリアで公的性格をもつ仕事をこなす女官であるのに対して、乳母のように、斎王のプライベートな「宮家」としての用向きを担当していたのではないかと考えられますが、詳しいことはわかりません。

乳母【めのと】

母親に代わって養育を受け持つ女性で、斎宮には、斎王個人の「家」に仕える存在として、二名ないし三名が務めるようになっていました。

女孺【にょうじゅ】

「めのわらわ」ともいう女官で、一等から三等に分かれており、それぞれに課せられた実務を担当していました。

采女【うねめ】

都では、地方の郡司の娘から選ばれ、天皇の御前などに奉仕していました。しかし、斎宮に采女がいたかどうかについてはよくわかっていません。

童・童女【わらわ・わらわめ】

都の官人が、家族で斎宮に赴任したということも考えられますから、その子供達が斎宮内に住んでいたという可能性はあります。しかし、群行の一員として加わっていたということはなかったようです。

第三十三回　斎王まつり

斎王フォトコンテスト

斎王賞

「まちの華」 松阪市　森田 幹郎

明和町教育長賞

「未来を見つめて」 鈴鹿市　榎本 清司

町長賞

「水面の鏡」 松阪市　後藤 和久

明和町議会議長賞

「王女の笑み」 玉城町　中川　清

斎宮歴史博物館長賞

「主役の二人」 明和町　寺西 一晃

特別賞

「出発前のひととき」 松阪市　高柳 美鶴代

特別賞

「微笑」 津市　上村　雅

特別賞

「めい姫と共に」 松阪市　萩原　伸

特別賞

「内緒話」 松阪市　加藤 幸範

特別賞

「祈り」 倉敷市　渡辺 浩司

斎王まつりフォトコンテスト作品募集

◆**サイズ**
・カラーまたは白黒作品でサイズは四つ切のみ。

◆**応募締め切り**
・平成28年7月15日(金)当日消印有効
(郵送中の事故、破損については責任を負いかねます。)

◆**応募方法**
・応募票を作品裏面に貼付、郵送または斎王まつり事務所受付。

◆**応募上の注意事項**
・応募作品には、応募者本人が撮影したもので一人2点以内(未発表の作品)に限ります。
・応募票の各項目に楷書で記入し、題名・お名前にはかならずフリガナをつけてください。
(複数応募の場合はコピーしてください。)
・入賞、入選作品については、あらためてデーターをお借りすることがあります。
・パンフレットやポスター、ホームページなどへの使用権は主催者に帰属します。
・応募作品のご返却はいたしません。

◆**賞**
・入賞は、10賞(斎王賞ほか)、入選は10作品

◆**選考方法**
・作品は斎王まつり実行委員会で選考いたします。

◆**発表**
・HPにて発表いたします。
入賞者には直接通知いたします。(8月上旬頃)

◆**応募先**
斎王まつり実行委員会「フォトコンテスト」係

◆応募・問い合わせ先
〒515-0321
三重県多気郡明和町斎宮2811番地
斎王まつり実行委員会事務局
電話　0596-52-1054

第31代斎王役
前田 彩乃

斎王役を務めて

十年前の斎王まつりにあこめ役で参加し、憧れ続けた斎王役。当時から変わらない憧れの気持ちと、斎王役を通して地元明和町に貢献したいという想いが遂に実現となると、喜びと共に責任の大きさを感じました。

鮮やかな十二単をまとい、煌びやかなステージに立った前夜祭は、いつか思い描いていた景色そのものでした。斎王様に想いを馳せ、物華(そうか)輦(れん)から眺めた斎宮の豊かな自然や平安装束の彩りは、平安絵巻を見ているかのような美しさでした。

昨年4月に「祈る皇女 斎王のみやこ 斎宮」が日本遺産に認定され、明和町や斎王まつりにとっても記念すべき年に斎王役を務められたことは大変嬉しく、誇りに思います。斎宮の地にお住まいであった斎王様が、日本遺産に認定されたこの地と歴史をさらに伝え広めるべく、その任務を私に託して下さったようにも感じました。私なりではありますが、皆様の心に残る斎王役を務められていたら幸いです。

これまでの多くの方々によるご協力やご支援に感謝申し上げます。日本遺産の地で行われる斎王まつりが、良き伝統を引き継ぎつつ、より一層の発展を遂げられますようお祈り申し上げます。

子ども斎王
石谷 好花

子ども斎王を務めて

子ども斎王にくじで選ばれた時はとてもびっくりしました。

祭りでは斎王さまと一緒に竹神社を御参りして絵馬を奉納したり、みそぎの儀をしたり、群行で物華輦(そうかれん)に乗ったりしました。初めての事ばかりで少し緊張したけど、たくさんの人が手をふったり、名前を呼んだりしてくれて、自然に笑顔になりました。

十二単はかわいくて、周りにいたお姉さん達もとても優しくしてくれました。

本当に楽しくていい思い出になりました。

葱華輦復元模型(斎宮歴史博物館蔵)

さいくう 平安の杜に つどう

斎王まつり実行委員会 代表 土井 祐治

昨年四月には、文化庁の「日本遺産」のひとつに三重県明和町の「**祈る皇女斎王のみやこ 斎宮**」が認定され、同年九月には「さいくう平安の杜」に平安時代の斎宮役所である「正殿・西脇殿・東脇殿」が竣工されました。

今年の第三十四回斎王まつりの出発式は、この「さいくう平安の杜」の正殿より斎王さまが、お出になります。皆様ぜひ、「正殿に立つ斎王さまのお姿」にご期待ください。

お子様から大人まで楽しめるまつりをめざしております。アトラクションや斎王市で楽しんで頂き、初夏の風が吹き、ノハナショウブが咲わたる「平安の雅な斎王まつり」にぜひ足をお運び下さい。

最後になりましたが、この斎王まつりは、皆様のご支援・ご協力で開催されており、厚くお礼申しあげます。実行委員一同、この「斎王まつり」を発信することで広く明和町のPRになるという思いの元に誇りを持ち、皆でまつりの成功に向けて頑張っています。

JAPAN HERITAGE
日本遺産

主催／斎王まつり実行委員会

後援◎三重県、明和町、明和町教育委員会、明和町観光協会、明和町商工会、斎宮歴史博物館、(公財)国史跡斎宮跡保存協会、(一財)民族衣裳文化普及協会
中部運輸局三重運輸支局、近畿日本鉄道株式会社、NHK 津放送局、三重テレビ放送(株)、三重エフエム放送(株)、松阪ケーブルテレビ・ステーション(株)、皇學館大学
問い合わせ◎斎王まつり実行委員会事務局　TEL.0596-52-0054　FAX.0596-52-7274

http://saioh.jp　定価100円　再生紙（古紙100%）を使用しています。